

一般選抜 前期 国 語 (二日目)

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

僕たちは自由というのを端的に「よいもの」というふうにかけていますけれども、実は自由はなかなか取り扱いにくいものです。それを痛感させる出来事が最近ありました。それは、2021年1月6日のアメリカ連邦議会議事堂へのトランプ支持派の乱入事件です。

あのニュースを見て、アメリカは本当に深い国民的分断を A 国なのだなと思いました。日本で総理大臣が直前の選挙で多数派を制することができなかったのは「選挙が盗まれたからだ」と言って、支持者に向かって「これから国会議事堂に突撃！」と煽る^{あお}などということはまずあり得ませんよね。でも、アメリカではそれが起きた。

⁽¹⁾ 映像を見て驚いたのが、議事堂に乱入した人たちが堂々と顔をさらして、スマホでパシャパシャ自撮りをしていたことです。その動画や写真をSNSに上げていた。そういうことができるのは自分たちが違法行為をしていると思っていなかったからです。自分たちはふつうのアメリカ市民であり、議事堂への乱入は正当な市民権の行使であると思っていた。(ア) 現役の大統領が「そうしろ」と言ったわけですから、非合法であるはずがない。市民には自分たちの市民的自由を制約する政府を廃絶する権利があると⁽²⁾アメリカ合衆国の独立宣言に明記してあるからです。

アメリカは独立戦争を戦って英国の植民地から主権国家になりました。ですから、市民には不当な政府の支配を否定する権利があるというのはアメリカ建国の基本にある考え方です。独立宣言には政府が市民たちの権利を損なうふるまいをした

場合には、「人民には政府を改革し、あるいは廃絶し、新しい政府を立ち上げる権利がある」と明記してあります。市民たちの生命、自由、幸福追求の権利をソ⁽¹⁾ガイする政府は倒して構わない。アメリカの英国からの独立と合衆国建国の正当性を基礎づけるためには、市民の武装権、抵抗権、革命権を認める必要があったのです。

でも、独立宣言から合衆国憲法の制定までには11年のタイムラグがあります。それはこの市民の武装権、抵抗権、革命権を憲法に明記してもよいのか、それについて合意ができなかったからです。英国からの独立を正当化するためには「市民には革命権がある」という原則は不可欠です。(イ)、いざ国ができてしまうと、その根幹をなす憲法に「政府が不都合なら暴力的に倒す権利がアメリカ国民にはある」と堂々と書き込むわけにはいきません。そのせいで10年⁽³⁾以上議論が続いた。

一方に市民的自由を何よりも重んじる人たちがいます。彼らはまさに自分たちは生命、自由、幸福追求の権利を「自然権」として有するということを根拠に独立戦争を戦い、合衆国を建国したわけです。ですから、国ができたからと言って、この国に対しては市民は革命権を持つことができないということ

書き込むわけにはいかない。そこで憲法本文ではなく、憲法修正第1条と第2条に自由を保障するという文言を書き込むことにしました。

憲法修正第1条は、「信教の自由、言論出版の自由、人民が政府に請願する権利」を保障しています。「請願」というのは「抵抗権」「革命権」のだいぶキシヤク⁽²⁾された表現です。市民は政府に対して「もろもろの不都合の除去のために」、「平和裏に集会をする」権利があると修正第1条には書いてあります。「もろもろの不都合の除去」という場合の「不都合」とは何のことか、「除去」とはどういう手立てのことを指すのか、それはわかりません。そのために市民が結集することは許されていますが「平和裏に」という副詞がひとつ付いています。市民が集まって政府に向かって「非常に不都合を感じているから、どうかしろ」と請願する権利はあるけれど、それは「平和裏に」行われなければならない。独立宣言にあった「抵抗権」「革命権」は、11年間の議論を経てこ⁽⁴⁾こまで薄められることになったわけです。

その一方で、憲法修正第2条には「武装権」が残されました。アメリカの独立戦争における主力は義勇兵、武装した市民

でした。一方、英国軍は国王の指揮下にある常備軍でした。王の私兵である英軍と武装した市民である植民地軍が戦って、武装した市民が勝利した。だから、武装した市民こそが軍の正統なあり方である、というのが合衆国建国の基礎にある「ストーリー」です。これだけは手離すわけにはいけません。⁽⁵⁾それがアメリカでいまだに銃規制が進まない最大の理由です。

ほとんどの人はご存じないと思いますが、アメリカ合衆国憲法は常備軍の保持を禁止しています。(ウ)今のアメリカは世界最大規模の常備軍を持っています。でも、これは厳密には憲法違反なのです。

X

1月6日の連邦議会のトランプ派の乱入を僕たち日本人は「暴徒が乱入した」というふうに理解しています。そして、「暴徒」を鎮圧するために「州兵」が動員されたという記事を読むと「州兵対暴徒」という歴然とした差があるように思います。でも、州兵も「暴徒」もどちらも主観的には「武装せる市民」なのです。「平和裏に」という条件には違背したけれども、トランプ派の人々は「不都合の除去」のために「集会する」という憲法修正第1条の権利を行使した。主観的にはそう思っていた。だから、平気でSNSに動画を上げた。

つまり、アメリカの統治原理そのものの中には⁽⁶⁾大きな矛盾が含まれているということです。武装する市民こそはアメリカの軍事的実力の本質であり、市民は自分たちの市民的自由を制約する政府に対して実力を以て「請願する」権利がある。トランプ派の行動は⁽⁷⁾ずいぶんと常識を踏み外したものではありませんけれど、C。これは僕たち日本人にはなかなか理解の及ばないことです。

でもその矛盾がアメリカの活力の源にもなっているのだと僕は思います。国も市民社会も個人も、簡単には解決のつかない葛藤を抱えているほうが成熟する。国の場合でしたら、すっきりした一枚岩の統治原理が貫徹している国よりも、統治原理のうちに矛盾を孕んでいる国のほうが活気があるし、失敗した時にも復元力がある。

常備軍を持つてはいけないという憲法がありながら常備軍を持つていること、市民たちに政府を覆す権利を(原理的には)

認めていること。この葛藤につねに苦しんでいることがアメリカという国の強さの秘密ではないかと僕は思っています。

ですから、現代において「自由」を代表する人物はドナルド・トランプだと僕は思っています。彼はさまざまな政治的無理難題をつねに「自由」の名の下に要求しています。ですから、トランプに理論的に反論することはとても難しい。

彼はリバタリアンです。リバタリアンとは個人の自由を最大限に尊重し、要求し、公権力の市民生活への介入を最小限にしようとする人たちです。リバタリアンのふるまいで際立っているのは、「徴兵拒否」⁽⁷⁾と「納税拒否」⁽⁸⁾です。「徴兵に応じない」というのは「常備軍を持たない」という発想と同根のものです。「反乱を鎮圧し、侵略を撃退する」のは武装した市民の本務です。銃を取って立ち上がるかどうかは市民一人ひとりの自己決定に委ねられています。召集令状が来たら従わないと「非国民」と罵られるというのが「ふつう」だと僕たち日本人は思っていますが、アメリカはそうではありません。徴兵に応じるといのは、自分がいつ、どういう目的のために死ぬのか、その決定権を政府に委ねるといことです。リバタリアンは自分の死には自分で決めるという考え方をします。ですから、徴兵を拒否する人を一概に卑怯だとか、平和主義者であるとかいうことはできない。リバタリアンはいつ、どういう仕方で「反乱を鎮圧し、侵略を撃退する」のかは、自分で決めると主張しているからです。必要があると自分で判断すれば、ただちに銃を取って、市民生活に別れを告げて、戦いに赴く。だが、それがいつ、どういう場合であるかは自分で決める。他人には指示されない。

アメリカ人の大好きなストーリーに「アラモ」の物語があります。テキサス独立のためにアラモの砦でメキシコ軍を相手に勇戦して死んだデイビー・クロケット大佐もジム・ボウイ大佐も典型的なアメリカン・ヒーローですが、彼らは誰に命令されたわけでも要請されたわけでもなく、自分の意思で戦地に向かって「侵略を撃退する」ために戦って死にます。そういう戦い方のほうが、徴兵されて、命令に従って戦死し、死に場所、死に方を自己決定できない死に方よりも「アメリカ人らしい」という考え方がアメリカには深く根付いている。日本人の考える「軍隊」や「兵士」についての概念ではなかなか理解が及びませんが、これがリバタリアンです。

もうひとつの「税金を払わない」というのもリバタリアンの特徴です。私財をどう使うかは自分で決める。自分の金の使

い方について公権力に関与されたくない。だから税金は払わない。でも、それは、「私財は私的目的のためだけに使う」という意味ではありません。アメリカは寄附の文化が広く根付いていますけれど、これは「私財を公共的に用いる」ということです。そういうお金を使い方をする人がたくさんいる。私財をどう公共的に使うかは私が自分で決める。何が「公共の福祉」であるかは自分で決める。政治家や役人に決めてもらう必要はない。そういう考え方です。リバタリアンは納税をしない代わりに自分がどんなに経済的に困窮して路頭に迷っても公的支援は求めないと宣言します。路頭で野垂れ死にしても、それは自己責任である。そう言い切る。だから、リバタリアンは国民皆保険制度にも、社会福祉制度にも激しく反対します。

⁽⁹⁾ ドナルド・トランプは、このリバタリアンの二大特徴を備えた人です。トランプは4回徴兵されて、逃れています。でも、彼の徴兵拒否は卑怯ゆえでも、反戦思想ゆえでもたぶんない。彼はリバタリアンですから、徴兵拒否するのが当然なのです。2016年の大統領選の際、新聞がトランプは大富豪であるという触れ込みなのに連邦税をほとんど払っていなかったという事実を報道しました。その時、彼は「すべてのアメリカ人はいかに税金を払わないか工夫している。私はスマートなので、それに成功したのだ」と豪語して支持者から拍手喝采を受けました。

(内田樹、ウスビ・サコ、『君たちのための自由論 ゲリラ的な学びのすすめ』より。文中省略あり。)

〔問二〕

空欄

A

に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 寿ことほいだ
- ② 孕はらんだ
- ③ 矛盾むじした
- ④ 蔑あやむろにした
- ⑤ 宣言せんげんした

〔問三〕

傍線——部(1)「映像を見て驚いた」理由としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 議事堂に乱入した人たちが、悠長にスマホで自撮りをしていたから。
- ② 議事堂に乱入する場面の動画や写真を、わざわざSNSに上げていたから。
- ③ 議事堂に乱入した人たちは、自分たちが違法行為をしているとは思っていなかったから。
- ④ 議事堂への突撃と、スマホでの自撮りという二つの行為が非常に対照的だったから。
- ⑤ 大統領が選挙に負けた後、連邦議会議事堂に乱入するよう支持者を煽あおったから。

〔問四〕

空欄（ア）～（ウ）に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- ① たとえば
- ② まるで
- ③ さながら
- ④ あたかも
- ⑤ いわば
- ⑥ しかし
- ⑦ まず
- ⑧ むしろ
- ⑨ なにしろ
- ⑩ もちろん

〔問四〕 傍線——部(2)「アメリカ合衆国の独立宣言」の筆者による説明として正しく、ないものを、次の①～⑤の中から一

つ選びなさい。

- ① 合意がなかなか得られなかったため、合衆国憲法の制定から11年たってから成立した。
- ② 市民の武装権、抵抗権、革命権を認めている。
- ③ 植民地だったアメリカが、英国から独立して主権国家を立ち上げた正当性を基礎づけている。
- ④ 自分たちの権利を損なうような政府を、市民が暴力的に倒してもよいと認めている。
- ⑤ 同じように建国に関わるとはいえ、合衆国憲法とは文面が異なる。

〔問五〕 太線——部(一)・(二)の漢字を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | | | |
|-----|---|----|---|---|---|---|--|--|
| (一) | ソ | ガイ | ① | 阻 | | | | |
| (二) | キ | シ | ャ | ク | ① | 借 | | |
| | | | | | ② | 惜 | | |
| | | | | | ③ | 酌 | | |
| | | | | | ④ | 积 | | |
| | | | | | ⑤ | 赤 | | |
| | | | | | ③ | 訴 | | |
| | | | | | ④ | 疎 | | |
| | | | | | ⑤ | 措 | | |

〔問六〕 傍線——部(3)「10年以上議論が続いた」理由としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 国民に武装権を認めると、暴力事件が頻発すると恐れた人々が少なくなかったから。
- ② 武装権、抵抗権、革命権を全く認めない人々が、憲法の作成者の中に大勢いたから。
- ③ 憲法は国の根幹であるため、細部にわたり慎重に議論する必要があったから。
- ④ 市民的自由を何よりも重んじる人々が、憲法などそもそも作成する必要はないと主張したから。
- ⑤ 英国からの独立を正当化した革命権を憲法で国民に認めると、合衆国の安定性が揺らぐから。

〔問七〕 空欄 B に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 整合性がとれるようになる
- ② 論理的には問題ない
- ③ 論理的に不整合になる
- ④ 感情的に許されない
- ⑤ 感情的な反発を招く

〔問八〕 傍線——部(4)「ここまで薄められることになった」の意味としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 憲法の本文ではなく、もっと軽い意味しか持たない付属条項として、修正第一条に記された。
- ② 抵抗権や革命権ではなく、信教や言論出版の自由と並ぶ自由権として認められるようになった。
- ③ 政府に対する請願権が省かれ、市民が平和裏に結集することしか認められなくなった。
- ④ 暴力的に政府を倒す権利が、政府に対して不満を平穏に願い出る権利になった。
- ⑤ 市民が結集して政府に対して不満を訴えることが、明確に認められるようになった。

〔問九〕 傍線——部(5)「それ」が指す内容としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 合衆国建国
- ② 手離すわけにはいかないこと
- ③ 武装した市民こそが軍の正当なあり方であるということ
- ④ 英国軍に対して植民地軍が勝ったこと
- ⑤ 王の私兵であることが合衆国建国の基礎にあること

は、以下の(い)(ろ)(は)(に)(ほ)(へ)の六つの文から成る段落です。これらの文の順番として正しいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

(い) 第15項には「連邦の法律を執行し、反乱を鎮圧し、侵略を撃退する」のがミリシアすなわち武装した市民であると明記されています。

(ろ) でも、そのための歳出は2年を超えてはならない。

(は) 常備軍は持たない。

(に) 憲法第1条8節は連邦議会の権限を規定した条項ですけれども、その12項には、議会は「陸軍を召集し、維持する」権限を持つと規定しています。

(ほ) それがアメリカの憲法の規定なのです。

(へ) つまり、陸軍は議会が必要と思つた時に召集するものであつて、必要な戦闘が終了したら、年度内に解散して、兵たちは市民生活に戻る。

- ① (に) (い) (ろ) (は) (ほ) (へ)
- ② (に) (ろ) (へ) (は) (ほ) (い)
- ③ (い) (ろ) (に) (へ) (は) (ほ)
- ④ (ほ) (い) (ろ) (は) (に) (へ)
- ⑤ (は) (ほ) (へ) (ろ) (に) (い)

〔問十一〕 波線~~~~部 a、d の言い換えとしてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

a 歴然とした

- ① まぎれもない
- ② 古くからある
- ③ 厳格な
- ④ どうしようもない
- ⑤ 当たり前前

b 一枚岩の

- ① 巨大な
- ② 不動の
- ③ 原理的な
- ④ 大きく広がった
- ⑤ 一つにまとまった

c 一概に

- ① 必ずしも
- ② だいたい
- ③ かたくなに
- ④ 無理やり
- ⑤ 概念的に

d 路頭に迷って

- ① 道端に座り込んで
- ② 進むべき道が分からなくなって
- ③ 生活に困って
- ④ 正常な判断力を失って
- ⑤ 将来が見通せなくなって

〔問十二〕 傍線——部(6)「大きな矛盾」に対する筆者の考えとしてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 統治原理に大きな矛盾があり、市民の武装を止められないため、銃規制が進まず犠牲者をなくすことができないという。
- ② 統治原理に矛盾があるため葛藤に苦しむことから逃れられないが、それが逆に失敗しても復元できる強さの源となっている。
- ③ 平和を願っているながら市民の武装を認めるといふ深刻な矛盾は、その元となっている憲法を改正しなければ解消されない。
- ④ 国の統治原理に含まれた矛盾は、アメリカの軍事的実力の本質であり、日本人にはなかなか理解の及ばないことである。
- ⑤ この矛盾ゆえに、連邦議会にトランプ派が乱入するという常識外れの事件が起きてしまったので、アメリカ人は困惑しているだろう。

〔問十三〕 空欄 C に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 州兵が動員されて鎮圧した
- ② アメリカではこれが常識である
- ③ アメリカの暴力性を証明している
- ④ 本人たちは人の目など気にしていなかった
- ⑤ 原理的にはアメリカの統治理念を実践している

〔問十四〕 傍線——部(7)「徴兵拒否」をリバタリアンが行う理由としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から

一つ選びなさい。

- ① 政治論争には積極的だが、戦場で自分を危険にさらすのは嫌だから。
- ② 市民を戦争に参加させる決定権は、政府にはないと考えているから。
- ③ 平和主義の心情に基づき、いかなる場合でも武器の使用を拒否しているから。
- ④ 戦闘は市民が行うものではなく、常備軍に任せればよいと考えているから。
- ⑤ 日本とは異なり、アメリカには召集令状が存在しないから。

〔問十五〕 傍線——部(8)「納税拒否」をリバタリアンが行う理由としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から

一つ選びなさい。

- ① 私財を公共的に用いることに反対しているから。
- ② 自分自身の財産は、自分や家族のためだけに使いたいから。
- ③ アメリカでは税金を使わなくても、寄付の文化が根付いているから。
- ④ 自分自身の財産の使い方について、政府から命令されたくないから。
- ⑤ 自己責任を重んじ、裕福であるため、税金を使った社会福祉制度に頼らなくて済むから。

〔問十六〕 傍線——部(9)「ドナルド・トランプ」についての筆者の考えとしてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の

中から一つ選びなさい。

- ① 大富豪ではあるが連邦税をほとんど払わず、4回徴兵されても逃れるなど、利己的で勇気のない人物である。
- ② 大統領選に敗れたことを認めず、支持者に国会議事堂襲撃を促しており、法の支配という概念を全く理解していない。
- ③ 現代において「自由」を代表する人物であり、支持者に議会の襲撃を指示するなど、何でも好き勝手に行おうとしている。
- ④ 自己責任を主張している点、そして国民皆保険制度と社会福祉制度に反対している点で、リバタリアンの二大特徴を備えている。
- ⑤ 日本人の感覚からすると理解しにくいのが、アメリカという国の成立事情を反映した生き方をしているからこそ、大勢の熱烈な支持者がいる。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしのところに、ときどき外国人の建築家がたずねてくる。

そのおり「せっかく京都にきたのだから」と、どこかに案内しなければならぬことがしばしばおきるが、そういうときは、桜のころなら夜の平安神宮に、紅葉のころなら夕暮の円通寺に案内することにしてはいる。

平安神宮の西神苑の白虎池や東神苑の栖鳳池のまわりの桜がさくときは、それらが池にうつりこんでそれこそ庄巻だ。たいていの外国人は肝をつぶす。

いっぽう京都の北、幡枝ばんえだにある秋の円通寺は紅葉がうつくしい。しかしそのボリュームは平安神宮の桜の何百分の一にもおよばない。

ところがここには、もう一つべつものがある。比叡山だ。円通寺の東をむいた客殿の縁にすわると、庭の真正面の深紅の紅葉のあいだから比叡山しよせんが聳然しやうぜんと姿をあらわす。とりわけ秋の夕暮は西日にはえていっそう美しい。それをみたほとんどの外国人建築家は、呆然(2)ぼうぜんとして声もでない。

円通寺の庭は「借景庭園」としてしられる。

けって大きい庭ではないが、庭一面が苔こけ、石でおおわれ、紅葉の木立があり、生垣のむこうには竹藪たけやぶや灌木かんぼくがおいしげつていて、さらにそのさきに比叡山がみえる。つまり

A

もちろんヨーロッパにだって宮殿からのすばらしい眺めなどはいっぱいある。(ア)それらはいって一望千里のパノラミックな景観だ。円通寺のように生垣や紅葉をはじめとする木立に切りとられて絵のようにみせる、というようなものをほとんどしらない。

というのも、ヨーロッパ人はいっばんに樹木にたいする関心がうすいからだろう。明治に日本にきて、古きよき日本文化を再発見したラフカディオ・ハーンも日本の木立の美しさを絶賛し「それは日本人が木々を愛しているからだ」という(『神々

の国の首都⁽¹⁾。

たしかに欧米人の植物にたいする関心のほとんどは花である。樹木のたたずまいや生垣・刈込のデザインなどといったものにはあまり興味をしめさない。

(イ) ヨーロッパには山というものがすくないから、山もあまり関心をひかない。

したがって「庭内の樹林と庭外の山などをあわせて一幅の絵にする」というような発想はなかなかおきてこないのである。その結果、ここに庭の構成要素のなかの「垣」というものにたいする東西の認識の差があらわれてくる。

というのは、ヨーロッパの庭の垣や塀は、たいてい外の世界と内の世界とを断絶⁽³⁾する「壁」でしかない。垣のなかには鉄柵というものもあるが、それらはヨウイ⁽⁴⁾にのりこえられないように高くしてあるか、あるいはしばしば鋭い剣先が天をむいて見る人をドキリとさせる。

ところが日本では、しばしば灌木で生垣をつくるだけでなく、塀なども板塀やブロック塀などでなく築地塀⁽⁵⁾のようにりっぱにしている。とくに借景庭園のばあいには庭の内と外の景観をつないで一つの風景にする、という大切な役割をもたせ、それによって B などの解消にも役だたせている。つまり「借景垣」だ。

(ウ) 垣や塀は日本の庭づくりにおいては景観の一部を構成するもので、たいへん重要なものである。江戸後期の俳人の小林一茶もそういう美を見逃さなかった。

⁽⁴⁾ 冬枯れや垣に結びこむ筑波山 (二七番日記)

⁽⁵⁾ この庭における垣の重要さを指摘したのは文学者の室生犀星であった。

かれは「庭づくりをはじめた人は最初のうちは木にこる」という。いろいろな木をうえて一時の満足をおぼえるが、しかしそのうちに兼好法師もいう「庭に木のおおいは賤⁽⁶⁾しげなるもの」(「徒然草」)ということに気づき「よその庭とくらべてみても、あつくるしくむさくるしい」とおもいはじめるようになる。

そこでつぎに石にこる。いろいろな石をとりよせて「ああでもない、こうでもない」と庭にならべるが、やがて石だけで

なく築山をつくったり池をほったりする人工的なこと自体に飽きがくる、というのだ。

むしろ庭には木や草をかってに生やし、石も適当にころがしておいて、ときおり庭にでてみるとおもいがけない草花や虫などを発見してびっくりすることのほうがたのしくなる。「築山泉水庭より雑木雑草庭」というわけだ。「C」というのである。

ただそのばあい、草や木にはあまり手をいれないが垣だけはしっかりしたものにする。垣さえととのつていれば庭のなかは少々乱雑でもみていて安心だ。その垣をバイカイ(二)にして庭の草木と外界の景観とが一体になった風景、つまり「借景の庭」をつくることもできる。「しっかりした垣と雑木雑草が究極の庭づくり」というわけだ。

そういう思想を円通寺の庭は実践している。

とはいっても、円通寺の庭はかならずしも雑木雑草庭ではない。円通寺にかぎらず、おおくの茶庭なども雑木雑草庭というよりは「侘わびの庭」である。ブシヨウ(三)をしているのではなく、いろいろ手数をかけている。利休もつぎのようにいつている。

侘びといふてむさきさまにしなす人あり、侘びはせめて物事きれいにしてこそよけれ(杉木普齋伝書)

じっさい円通寺の庭は、ところどころ地肌がみえるような自然な苔庭に、わずかに石組と刈込をおいたものだ。ただそれをとりまく生垣は何十種類という灌木をあつめて刈りこんだ「雑垣」である。だから季節季節にいろいろの花がさく。人はおもいがけないときにおもいがけない花をみつけてよろこぶ。

円通寺の庭は、雑木雑草にくわえて「雑垣の庭」といつていいだろう。

しかしそれにしてもなぜ雑木雑草庭がいいのか？ なぜ雑垣の庭がいいのだろうか？

それはさきよのべたように、計画されたものもちがって雑木雑草庭にはおもいがけない発見があるからだ。それもたいてい小さな生物の発見である。小さな生物が一生懸命生きている姿をみつけて人は感動する。

それはいいかえると「中自然」というものの発見といつていい。中自然とはわたしの造語だが、それはこういうことだ。

自然のうちの大自然は、北極や砂漠、高山や大海といった、おいそれとは人間がちかよれぬ、また人間の力のおよばぬ世界である。竜巻や台風、地震や火山といった自然現象もこれにはいる。そういう世界に身をおいたとき、これだけ科学技術が発達していても人間はそれら大自然の威力のまえにはただ小さくなるだけだ。それは人間に立ちほだかる「神のような自然」である。

いっぽう小自然⁽⁶⁾は、植木鉢の花、金魚鉢のキンギョ、鳥籠の鳥である。イヌやネコも、ウシやウマも、動物園のライオンやゾウも、田畑の作物や公園の草木も、山のスギ林などもみなこれにはいる。つまりそれらはどんなに大きくても人間がやしなっているものだ。人間の手をはなれては生きていけないものである。いわば人間のためのペット、あるいは「奴隷のような自然」なのだ。

この世界には、しかしこの大自然でも小自然でもないものがいっぱいある。空とぶ鳥、木になくセミ、地をほう虫、川をおよぐ魚、山にすむイノシシ、それに野の雑草、丘の雑木林、深山の原生林などなどである。それらはどんなに小さくても、またかよわくても、人間が飼っているものではない。人間の世話にはなっていない。ひとりで勝手に生きているものたちである。人間にとってはいわば「他人のような自然」だ。それをわたしは中自然とよぶ。とすると、わたしたちがふつう自然というとき、このうちのどの自然をさすのか？

(エ) 大自然は神のようにおそろしく、日常あまりしたくない存在ではない。

また中自然は他人だ。しばしば人間とテリトリーをうばいあう。人間は林を伐採し、池をうめたて、鳥やタヌキなどのすみかをつぶし、野を道路や宅地にかえて虫たちをおいだす。人間の歴史はそういった中自然世界の「破壊の歴史」といっていい。

そしておおくの人間は、都市のコンクリート・マンションのなかで「自然がない」といってテーブルに花をかざり、植木鉢に水をやり、イヌやネコをかわいがり、しばし心をいやす。いわば「ペット」や「奴隷」のような小自然が人間にとってのかけがえのない自然なのである。

といっても、わたしはべつに小自然を攻撃しているのでも、否定しているのでもない。それは人間にとって必要なものである。問題は中自然をないがしろにすることだ。

そこでもっと中自然をみなおすことをかんがえたい。一生懸命地面ではたらいっているアリたちに、コンクリートの割れ目からたくましく芽をふきだす雑草などに「おたがいこのすみにくい世によくぞ生きているなあ」というおもいやりをなげかける心の余裕をもちたい。たとえそのあとすぐにアリをつぶし、雑草をひきぬかなければならないとしても、である。自然のよき理解者であるさきの一茶もいつている。

D

（『七番日記』）

このごろの日本人の自然にたいする関心の高まり、すなわち里山や鎮守の森、あるいはコンクリート護岸化されていないような「里川」や「里海」にたいする注目は、そういつたいわば「中自然⁽⁷⁾回帰」をしめすものではないか？

しかし、いっばんに西洋人は中自然をみとめたがらない。

かれらは中自然⁽⁸⁾をすべて小自然化しようとする。中自然のカオスともみられる混沌^{こんとん}世界をこのまず、人間のつくったコスモスという秩序世界にすべてをくみいれようとする。それが西洋文明の機軸⁽⁹⁾になった思想、つまり「人間中心主義」だ。ルネッサンスなどはその最たるものである。

（上田篤『庭と日本人』より。文中省略あり。）

〔問二〕

傍線——部(1)「紅葉のころなら夕暮の円通寺に案内することになっている」のように、筆者が述べる理由としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 円通寺が比叡山の中に建っている寺であるから。
- ② 円通寺は外国人建築家によく知られている寺であるから。
- ③ 円通寺は平安神宮と並ぶ立派な寺であるから。
- ④ 円通寺には筆者がもっとも美しいと感じる庭があるから。
- ⑤ 円通寺は庭の景色に庭外の山を取り入れているから。

〔問二〕

傍線——部(2)「ぼうぜん呆然として」は、外国人建築家のどのような様子を表しているのか。もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 驚きであっけにとられている様子。
- ② 美しさにうっとりしている様子。
- ③ すばらしい技に感心している様子。
- ④ 感動して興奮している様子。
- ⑤ 突然のことに驚いている様子。

〔問三〕

空欄

A

に入るもっともふさわしい文を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 庭の景物として細やかなものを配置し、丁寧な庭づくりを見せている
- ② 庭の景物だけなしに外部世界の風物をもとりいれて一場の眺めとしている
- ③ 庭の景物をできるだけ小さくして、外部世界の風物をより大きく見せている
- ④ 庭の景物だけでは物足りないため、外部世界の風物をとりにいれている
- ⑤ 庭の景物に歴史を感じさせるものを置き、外部世界との時間の隔たりを感じさせている

〔問四〕

空欄（ア）～（エ）に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | しかし | ② | つまりは | ③ | もし | ④ | なぜなら | ⑤ | あるいは |
| ⑥ | したがって | ⑦ | さらに | ⑧ | まったく | ⑨ | まずは | ⑩ | たとえば |

〔問五〕 傍線——部(3)「断絶」と同じ成り立ちの熟語を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 公園
- ② 干満
- ③ 造語
- ④ 樹木
- ⑤ 断崖

〔問六〕 太線——部(一)～(三)の漢字を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|-----|---------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (一) | ヨ ウ イ | ① | 用 | ② | 要 | ③ | 様 | ④ | 揚 | ⑤ | 容 |
| (二) | バ イ カ イ | ① | 解 | ② | 回 | ③ | 開 | ④ | 介 | ⑤ | 会 |
| (三) | ブ シ ョ ウ | ① | 消 | ② | 省 | ③ | 性 | ④ | 承 | ⑤ | 精 |

〔問七〕 空欄 B に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 庭の狭さ
- ② 庭の汚さ
- ③ 庭の魅力
- ④ 庭の乱雑さ
- ⑤ 庭の複雑さ

〔問八〕 傍線——部(4)の俳句に使われている修辞を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 枕詞
- ② 掛詞
- ③ 切れ字
- ④ 倒置法
- ⑤ 反復法

〔問九〕 傍線——部(5)「室生犀星」の作品を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 抒情小曲集
- ② 智恵子抄
- ③ 若菜集
- ④ 邪宗門
- ⑤ 月に吠える

〔問十〕

空欄

C

に入るもっともふさわしい文を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 人工的な庭より野のほうがすばらしい
- ② 人工的な庭より借景庭のほうがすばらしい
- ③ 自然の庭より借景庭のほうがすばらしい
- ④ 自然の庭より人工的な庭のほうがすばらしい
- ⑤ 自然の庭に驚きを加えることの方がすばらしい

〔問十二〕 傍線——部(6)「小自然」に対する筆者の考えとしてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 「小自然」とは、すべて人間がやしなっているものであり、自分では生きることのできない不完全なものである。
- ② 「小自然」とは、人間の手をはなれては存在できないものであり、人間の心をいやすかけがえのないものである。
- ③ 「小自然」とは、人間が自らの心をいやすためにつくりだしたものであり、人によって異なるものである。
- ④ 「小自然」とは、自然のない都会の中に自然をとりいれるため、人間がつくりだした小さな動植物の世界である。
- ⑤ 「小自然」とは、人間が世話をしている動植物であり、自分では生きていけないことから本来の自然とは言えない。

〔問十二〕 空欄 D に入る小林一茶の俳句を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 雀の子そこのけそこのけお馬が通る
- ② 我と来て遊べや親のない雀
- ③ 蠅はえ一つ打ってはなむあみだぶつかな
- ④ やせ蛙負けるな一茶これにあり
- ⑤ 名月を取ってくれろと泣く子かな

〔問十三〕 傍線——部(7)「中自然回帰」の内容としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 人間にとって必要な小自然を中自然に変えることによって、本来の自然を取りもどすということ。
- ② 人間が破壊してきた中自然をもとの姿に戻し、管理しやすい環境に作り直すということ。
- ③ 人間と、人間とは他人の関係にある中自然が共存していたころに戻ろうとしているということ。
- ④ 人間が大自然を変えることはできないが、中自然を変えることで環境改善が図れるということ。
- ⑤ 人間だけでなく、中自然の生き物であるアリや雑草を大切にすることで環境が豊かになるということ。

〔問十四〕 傍線——部(8)「中自然をすべて小自然化しようとする」の内容としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① ひとりで勝手に生きているものに、おもいやりのことばを投げかける心の余裕を持つとうとすること。
- ② 日本が侘びの文化を継承しているのに対して、西洋ではルネッサンスを継承しようとしていること。
- ③ 日本人が中自然を大切にしてきたのに対して、西洋人は人間を大切にしようとしているということ。
- ④ 人間とは関係なく生きているものを、人間の考える調和の取れたシステムに組み入れようとすること。
- ⑤ 人間の世話を必要としない雄大な自然を、安全に楽しむことができるようにしようとする事。

〔問十五〕 傍線——部(9)「機軸」の意味としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 長所
- ② 短所
- ③ 中心
- ④ 始まり
- ⑤ きっかけ

〔問十六〕 筆者の考えとしてふさわしくないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 日本の庭において、垣や塀は庭の景観の一部であり、庭の内と外をつなぐという重要な役割がある。
- ② 庭づくりにおいて人は、最初は木を植えることを大切にするが、そのうち作為のない庭に魅力を感じるようになる。
- ③ 大自然は人間の力が及ばないものであり、科学技術が発達したとしても人間が管理できるものではない。
- ④ 手数をつくした人工の庭に大自然や中自然をとりいれることによって、日本の庭は自然全体を内包することになった。
- ⑤ 円通寺の庭は人の手を加えていない雑木雑草庭であるため、小さな生物などの思いがけない発見がある。

【解答例】

入試年度 : 2024
入試種別 : 一般選抜
前期日程 1日目
科目 : 国語

問No.	解答番号
1	2
2	3
3	9
4	6
5	10
6	1
7	1
8	4
9	5
10	3
11	4
12	3
13	2
14	1
15	5
16	1
17	3
18	2
19	5
20	2
21	4
22	5
23	5
24	1
25	2

問No.	解答番号
26	1
27	7
28	6
29	10
30	4
31	5
32	4
33	5
34	1
35	3
36	1
37	1
38	2
39	3
40	3
41	4
42	3
43	5